

研究主題：

地域の防災力向上に向けた研究

准教授 **小山 真紀** Maki KOYAMA



研究のキーワード

地域防災，自助・共助・公助，人材育成，防災活動団体

所属：岐阜大学 流域圏科学研究センター
役職：准教授
E-mail：maki_k@gifu-u.ac.jp
専門分野：地域防災科学

一言アピール

現在取り組んでいるテーマは、地域防災人材育成プログラムの開発とプログラム評価を通じたマネジメントに関する研究、災害における死傷者発生メカニズムの解明、生きづらさ学の構築などがあります。
地域防災科学は、一つの独立した分野ではなく、災害という場を通じてあらゆる分野をつなぐ学問です。そのため、私の研究でも、入力側（地震動～構造被害など災害事象）と人の被害、人間行動、生活再建など、分野の拡がりだけでなく、時空間的にも広い視点で問題を扱っています。災害時だけでなく、日常まで含めているような事をつないで考えることで、いろんな世界が見えてきます。

経歴

1998年4月 日本電信電話株式会社 入社
1999年4月 (財)地震予知総合研究振興会
東濃地震科学研究所 研究員
2010年4月 京都大学大学院工学研究科 特定研究員を
経て同大学医学研究科・特定准教授
2015年6月 岐阜大学流域圏科学研究センター准教授
(清流の国ぎふ 防災・減災センター兼任)
現在に至る 博士(工学)

研究の概要



災害時の人の死傷に関わる調査を通じて、死傷者発生メカニズムの解明と、それに基づく減災対策に関する研究を行っています。

近年の研究では、清流の国ぎふ 防災・減災センターにおける防災人材育成プログラムの開発とプログラム評価手法の検討、そしてプログラム評価を通じたマネジメントの実現に関する研究、持続可能な防災組織に関する研究を進めています。また、東日本大震災における津波による死亡者の分析から、津波による死傷に関わる地形的要因と社会的要因の分析を、熊本地震における倒壊家屋からの救助事例調査への協力など、死傷者発生メカニズムの解明を通じた減災対策の検討を行っています。

さらに、これらの成果を災害への備え、平時の暮らしやまちづくりに反映するための方策について、関係研究者と協力しながらワークショップなどの手法を使いながら実施しています。



代表論文

- ・Katsuichiro Goda, Grace Campbell, Laura Hulme, Bashar Ismael, Lin Ke, Rebekah Marsh, Peter Sammonds, Emily So, Yoshihiro Okumura, Nozar Kishi, Maki Koyama, Saki Yotsui, Junji Kiyono, Shuanglan Wu and Sean Wilkinson: The 2016 Kumamoto earthquakes: cascading geological hazards and compounding risks, *Front. Built Environ.* 2:19. doi: 10.3389/fbuil.2016.00019
- ・四井早紀・小山真紀・古川愛子・清野純史: 東日本大震災における福島県内市町村を対象とした避難ルート特性と死亡率の分析, *地域安全学会論文集*, 27, pp.85-93, 2015.

共同研究希望分野

- (1) 教育プログラムの開発，プログラム評価（アクションリサーチによる開発と評価と改善のマネジメント）
- (2) 心理学でつなぐ分野横断研究（社会や人が関わる問題は、審理の問題を避けて通れない。心理学という共通言語を用いて分野を超えた共通のモノサシを使った横断研究）
- (3) 生きづらさ学の構築（対処療法から、分野を超えた共通の問題構造の発見，系統化に向けて）